

「完全自動リアルタイムフルデマンド交通システム SAV 向けプラットフォームの研究開発」の概要

地域住民の活動目的を踏まえた移動サービスを提供し、地域活性化の基盤となる公共交通システムを実現する

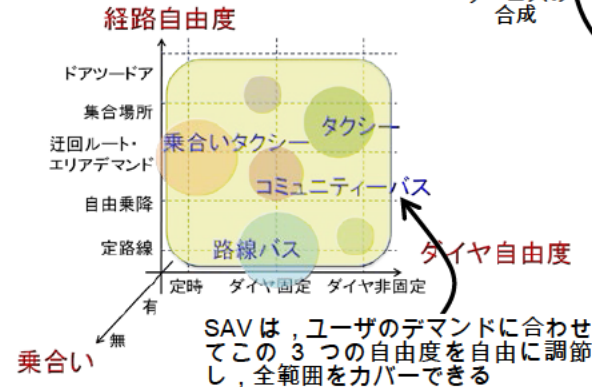
研究代表者 : 平田圭二 (公立はこだて未来大学)
 参画研究機関名 : はこだて未来大, 産総研, 名古屋大学
 研究開発期間 : 平成 28 年度 ~ 平成 30 年度

SAV (Smart Access Vehicle) とは?

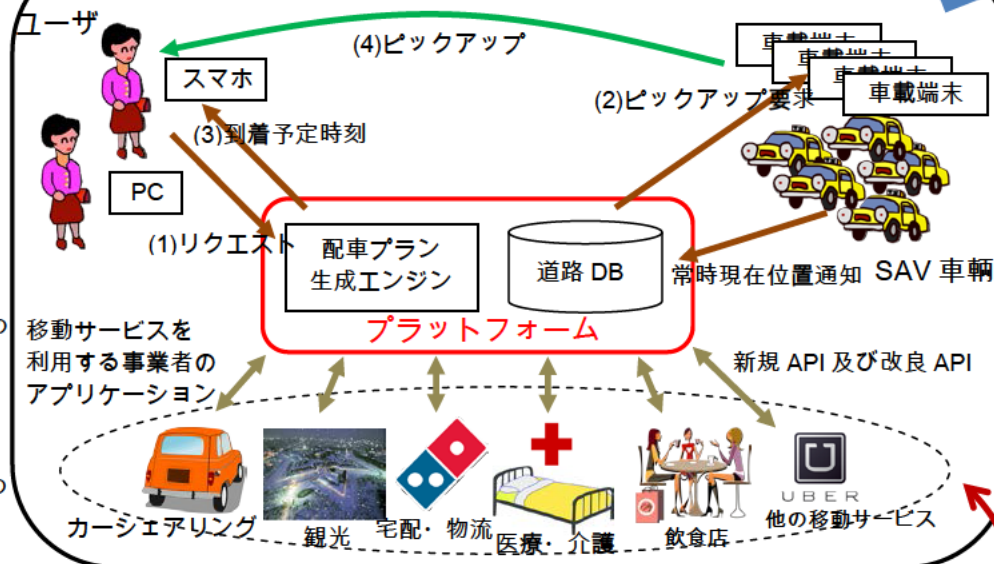
- ・ Demand Responsive Transportation (DRT)
- デマンドが生じた時点で SAV を呼び出す
- ・ 行き先と時刻が近いと乗合いが生じることがある
- ・ バスとタクシーの中間のような乗り物
- ・ 過疎地域ではなく都市を対象とする
- デマンド受付から配車までをリアルタイム全自動で、キャンセル処理も全自動
- ・ 配車アルゴリズムの切替えにより
- ある日のある地域は一般のタクシー配車システム、別の日別の地域では SAV として運行することも可能

移動サービスのクラウド化とは?

- SAV の使われ方の例:
- ・ 1 台の SAV が病院の送迎をしたあと、宅配サービスに使われる
 - ・ 1 台の SAV に異なるサービスのユーザが同時に乗り合わせる
 - ・ 複数台の SAV を 1 つのサービスに投入して大量の輸送を行う
- サービスの分割
サービスの合成



本課題で構築する SAV 向けプラットフォーム



第 1 回目実験

平成 29 年 7 月頃
 SAV 車両 50 台
 4 日間、乗客 500 名
 函館市全域
 (約 10Km 四方)

新規 API, 改良 API の機能確認、待ち時間 5 分以内、乗車失敗率 10% 以下を目指す

第 2 回目実験

平成 30 年 7 月頃
 規模は第 1 回目と同じ
 サービス連携の実現、乗車失敗率 5% 以下、バス並みコストでタクシー並み利便性を目指す

この実験成功を受けて、日本や世界の各都市で SAV システムを導入・展開するためのプラットフォーム作成

JST・RISTEX プロジェクトでの実証実験

2015 年 5/30-6/2, SAV 20 台, 乗客 211 名, デマンド 523 件



山口俊一内閣府特命担当大臣 (IT 政策担当) がはこだて未来大を訪問され、旧 SAV システムを視察 (2015, 3/7)



研究分担者、連携研究者

中島秀之、鈴木恵二、松原仁、白石陽 (以上公立はこだて未来大学)
 野田五十樹 (産総研)
 金森亮 (名古屋大学)
 松舘渉 ((株)アットウェア)
 佐野渉二 (金沢工大)

松舘を除く全員が JST・RISTEX プロジェクトメンバーであった